

## 煩悩

男と女の愛憎のドラマも凄いです、血で血を洗うドラマも凄いです。

そのようなドラマを数限りなく、性懲りもなく、繰り返してきたのが、私達人間です。

そのような人間達が、滝に打たれ、山を駆け巡り、眠らず、食べずの修行をして、あるいは、身を清め、心静かに写経など嗜んでも、煩悩を断ち切ることなど絶対に不可能です。

人間は愚かな生物なのです。

生まれてきて、煩惱が芽生えるのではなくて、煩惱を持って生まれてきます。

生まれる、肉体を持つとは、そういうことです。

そして、また煩惱を抱えながら、死んでいくのだと思います。それが、これまでの私達の転生の歴史だと思っています。

「いいえ、違う。」

確かに私達の転生はそういうものかもしれないが、その中で、悟ったとされる人もいただろうし、迷える衆生を救うために形を変えて、この世に現れたとされる化身けしんという話もあるではないか。」

「あなたは、本当にそのようなことを信じておられますか。

信じておられるとしたら、何を証拠に信じておられるのでしょうか。

文献ですか、それとも、どこかの偉い人の話ですか。

本を読んで、人の話を聞いて、ただそれだけで信じられるもの  
でしょうか。

実際にその人達と接触して、直接にその人達から話を聞いたり、  
あなた自身の目で確かめられたりして、初めてなるほどそうだと納  
得するものではないでしょうか。

しかも、現代のように、科学技術万能の時代に、文献であるとか、  
言い伝えだけを鵜呑みにするなんて、何かちぐはぐな話ではありま

せんか。」

「いいえ、科学だけでは解き明かせないのが、人間の心の世界ではありませんか。神とかの目に見えない世界は、人間には分からない、神のみぞ知る神秘的な世界です。」

そうです。目に見えない世界は、科学のみならず、宗教や心理学、文学などでは解き明かせないのです。

しかし、私達には、その目に見えない世界のことを知っていく能力があるのです。その能力は、最初から私達には備わっていました。

しかし、それは諸刃もろはの剣つるぎだったのです。

その能力を研ぎ澄ますためには、煩惱というものをしっかりと見  
つめていかなければならない諸刃の剣を、私達は自分に用意しまし  
た。

煩惱の中で、決してそれに溺れずに、煩惱をしっかりと見つけて  
いくことが、目に見えない本当の世界を知っていくことに繋がって  
いくのだと思います。

そして、煩惱をしっかりと見つけていくには、自分の心を見る以  
外に方法はありません。

山を駆け巡っても、世捨て人になろうとも、煩惱というものから  
解放されることはありませんでした。

逆に、心をしっかりと見つけていけば、目に見えない本当の世界

が自分の心で分かっているいき、自分というものが、はっきりと見えてきます。

そうすれば、自分の中の様々な欲、いわゆる煩惱という実体も見えてくるということなのです。

だから、「心を見る」ということは、凄いいことなのです。

心を見ていけば、煩惱は断ち切るものではなくて、自分の中で解き放していくものだということが分かってくるからです。

煩惱は、いわゆる肉体を持った私達の本能です。

しかし、本能のなすがままでは、社会が成り立ちません。

社会が成り立たないということは、私達は、心を見る場を得られ